



S_{unday} S_{chool} クラスルーム

日本キリスト教団 荻窪清水教会 日曜学校だより No.25 2022. 7. 31 発行

罪を過ぎ越すために

出エジプト記12章21-28節

ごきげんよう!

牧師 梅津 裕美

飢饉から逃れてエジプトに移住したヤコブの一家は、神さまの祝福をいただいてどんどん数を増して行きました。あまりに増えて行くものですから、エジプトの王さまファラオはとても心配になります。こんなに増えたら、エジプトの国が乗っ取られてしまうのではないかと…。そこで、彼らを奴隷にして重労働で苦しめれば数が減ってゆくだろうと実行したのです。そこで神さまはモーセを指導者にして、苦しむイスラエル人たちをエジプトから救う計画を実行します。エジプトを次々と災いが襲います。ナイル川が血の色になり、カエルが大量発生、さらにぶよが襲ってきて、そうかと思うとあぶが襲いかかる。感染病に悩まされ、腫物の病気も流行、天から雹が降ってくるかと思えば、そこら中いなかだらけになり、ついにエジプト中が真っ暗闇になる。とうとう最初に生まれた子（人も家畜も）がみな死んで行く最後の災いに…。ところが、イスラエル人の家の戸口には小羊の血が塗られて、それが目印となって死の災いが通り過ぎて、イスラエル人たちは無事にエジプトを脱出できたのです。

それと同様のことが新約聖書で起きています。イエスさまは、神の小羊となって十字架で血を流して死んで、その血をわたしたちに塗ってくださいます。その血のしるしによって、わたしたちの罪が裁かれず過ぎ越していただけるのです。これが、イエスさまの身代わりの死という恵みです。

【夏期学校に参加ありがとう!】



7月18日（月・海の日）は、感染拡大のため午前中だけの学びになりましたが、いっしょに聖書を学びながら、神さまへの手紙を書きました。神さまに「こんなこと聞いちゃいけないかな?」と思っていたかもしれませんが、みなさんの素直な質問に牧師さんから小さなお返事を書きましたので、読んでくださいね♡

堀内長老からのメッセージ

先日、東京・銀座で開催された、画家・井上直さん（京都・洛北教会会員）の絵画展を鑑賞しました。聖書をテーマにした油絵作品で、井上さんの信仰の証しとして描かれた作品です。クリスマスの三人の博士、主日の教会に向かう人々など油絵独特のタッチで描かれており、まさに「現代の聖画」です。そうした作品の中で、私が緊張した思いになったのがイエスさまの受難を描いた一連の作品です。ほかの作品と異なり、受難をテーマにした作品は暗い色で描かれています。イエスさまの受難の時、ガリラヤから従って来た婦人たち（マタイ27章）の心の目に見えたのは、まさに暗い色で描かれた光景だったのではと思います。しかし、イエスさまが暗い中を通られたからこそ、今私たちが光の中を歩めるのです。この作品は、平野克己牧師（東京・代田教会）の著書「説教 十字架上の七つの言葉」に掲載されていますが、その著書には「（コロナ禍の今）だからこそ、主イエス・キリストの十字架上の言葉が輝きを増すように祈りつつ」とあります。今この時も、私たちにイエスさまが光輝く言葉を語ってくださっているのです。